

| | |
|---------------|---|
| Title | 天祝土族語の特徴『裕薩爾文庫』第三巻の資料に基づいて |
| Author(s) | 角道, 正佳 |
| Citation | 大阪外国語大学論集. 17 p.33-p.61 |
| Issue Date | 1997-09-30 |
| oaire:version | VoR |
| URL | https://hdl.handle.net/11094/79730 |
| rights | |
| Note | |

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

天祝土族語の特徴 『格薩爾文庫』第三巻の資料に基づいて

角 道 正 佳

Remarks on the Tianzhu Dialect of the Monguor Language

KAKUDO Masayoshi

The aim of this paper is to describe the characteristics of Tianzhu dialect, a sub-dialect of Huzhu dialect which in turn is one of the main dialects of the Monguor language. Some remarkable characteristics are as follows. Short vowels *i* and *a* never occur in word initial position and they become long vowels. The short vowel of the initial syllable is often reduced to schwa. *au* and *uu* are neutralized and *ai* and *ee* have become vague as in the Halqi ghul dialect. A new phoneme *n* occurs mainly between *m* and unrounded vowel. *l* in Tibetan loan word *rgyal po* 'king' is retained, and *l* in *yul* 'country' becomes *r* as in Schröder's material. Dative-locative case marker has an allomorph *-stə*. Conjunction *ɛ* 'and' is clearly distinguished from particle *ta* 'too, even'. *-nkə* is added even to consonant stems. Negative particle *lii* can be followed by declarative past tense *-va*.

0. はじめに

1996年に甘肅民族出版社から出版された『格薩爾文庫』第三巻は王永福が語った土族のゲセルを息子の王国明がIPAで記録したものである。王永福は1931年5月青海省恰溝で生まれ、一歳のときに甘肅省天祝藏族自治州多謙溝に移り、1958年から現在まで朱岔郷の狭口村に居住している。このテキストに記されている言語を『格薩爾文庫』第三巻に従って天祝土族語（あるいは土族語天祝方言）と呼ぶことにし、その特徴を検討する。土族語は互助方言と民和方言に大別され、天祝方言は互助方言に属す。互助方言の下位方言として、東溝方言、哈拉直溝方言、那龍溝方言等がある⁽¹⁾。天祝方言は哈拉直溝方言に最も近い特徴を持っているけれども、長母音の出現の仕方、*-nge*のバリエーションの不在、与位格のバリエーションの存在等で他の下位方言とは違った特徴を持っている。

1. 母音

『格薩爾文庫』第三卷1－6ページに子音、母音、アクセント、音節に関する概説が掲載されている。最も問題なのは母音である。次のような母音の表が載っている。ただし()は本文中には現れない母音であり、* は表にはないが本文中に現れる母音である。

| | 前 舌 | | 後 舌 | | | | 中 |
|----|-----|----|-----|----|-----|----|-------|
| | 非円唇 | | 非円唇 | | 円 唇 | | 中性 |
| | 短 | 長 | 短 | 長 | 短 | 長 | |
| 高 | i | ii | | | u | uu | |
| 次高 | | | | | ɯ | ɯɯ | |
| 上中 | e* | | | | o | oo | |
| 中 | | | | | | | ə (ə) |
| 下中 | ɛ | ɛɛ | | | | | |
| 低 | | | a | aa | | | |

この表と共に次のような説明がある。

- (1) 短母音 a は IPA の [ɐ] に相当し、鼻音 ŋ の前では [ɑ] になる。
- (2) 短母音 i は重母音中にのみ現れる。
- (3) ə は ts, tsh, s の後ろで [ɿ], tʂ, tʂh, ʂ, r の後ろで [ʊ] になる。
- (4) ɤ は音節を形成し、漢語借用語にのみ現れる。例えば, ɤliəutɕə “二流子 (er⁴liu²zi) 「のらくらもの」”。
- (5) u は tɕ, tɕh, ɕ の後ろで [y] になる。例えば, wtɕhu 「飲む」は [wtɕhy] と読む。

舌の前後に関する記述は妥当であるが、円唇性に三段階設けたり、口の開き具合を六段階設けるのは音韻的には無駄である。またこの表に載っているのが音素であるのかどうか疑問である。上述の14の母音のうち、i, ɛɛ, uu, ɯɯ, oo は出現頻度がきわめて少ない。また ə は本文中には一度も現れない。出現頻度が少ない母音を含んでいる語を以下すべて書き出してみる。ただし音節の切れ目は省略する。数字は現れる行を表す。『土漢詞典』の綴りがわかる場合は併せて()で記す。i は重母音中にのみ現れると説明されているが、次の9語(実際は8語)に現れる。もっともこれらの i はほとんど ii というバリエーションを持っている。ɕəuumi 30 ~ ɕəuumii 33 「下の竈」, kaŋmi 30 ~ kaŋmii 31 「上の竈」, kəsəminii 4141 「廟塔」, ɬiji 1034 ~ ɬijiii 634 「里域(地名)」, rinkon riɕtɕəu 4459 ~ riinkon riɕtɕəu 4482 「一人一つの分け前」, ʂtsi 1159 ~ ʂtsii 37 「頂」, tɕi 1749 「的」, ti 4265 「在」, tin 2765 「最も」。ɛɛは ɛ と交替する tɕhɛɛɛ 2817 ~ tɕhɛɛ 4153 (qiree) 「顔」1語にしか見られない。uuも次の2語しかない。そしてそのうち一つはuu~u, ə というバリエーションを持っている。puula 4453 ~ pula 4292, pəla 4292 (buula-) 「充満する」, xuutɕa 2965 「巻いていた」。ɯɯは次の4語に現れる。そのうち3語は ɯ ~ ɯ のバリエーションを持っている。fɯwɯlə 3214 ~ fɯlə 2987(hauli-) 「走る」,

fʷɔtə 3670 ~ fʷtə 3334 (fodi)「羽」, thəqʷw 3626 ~ thəqʷ 320 (tughu-)「鞍を付ける」, nkur
 w 2900 (nguroo-)「転がる」. ʷwsa 229, ʷwsə 895 (oosi-)「生長する」. oo は次の8語に現れる。
 そのうち4語は oo ~ o のバリエーションを持っている。ɕoomi 4041 (xoomii)「包子」, foole
 174, 541 ~ xolə 2733 (hauli-)「走る」, koomoola 4751「勧める」, loolə 4706 ~ lolə 425
 「不要」, pantɕujoo 2608 ~ pantɕujo 2439「山の中腹」, pootɕhə 4081 (booqi-)「箕で穀物を
 ふるう」, xalqoo 4195 (halgu-)「跨ぐ」, xoola 3305 ~ xola 3333 (hoolo)「喉」。上述の表に
 ない母音 e が本文中に現れる。kaare 4265「持って来る」, tɕæren 28 (yerin)「九十」, nka nka
 xser rəuu 2308「朶朶肉色(天王神の守護鳥)」。

(3)(5)の説明は、東溝方言の説明と一致する。

こういった状況を観察すると、以上の母音は音素として認定する必要があるのかどうか非常に
 に疑わしいものばかりである。とくに長母音にそういった母音が集中している点が問題である。
 同じ長母音でも ii と aa は出現頻度が多いが、これについては次に述べる。

2. 長母音⁽²⁾

上述したように ɛɛ, uu, ʷw, oo は出現頻度がきわめて少ない。一方 ii, aa はわりあい出現頻
 度の多い母音である。しかしこの2つの長母音にはきわだった特徴がある。aa で始まる語は50
 語あるが、a で始まる語は1語しかない。しかもその1語は aa で始まるバリエーションを持っ
 ている。jii で始まる語は15語あるが、i で始まる語は1語もない。これは言い換えれば、語頭
 で a は必ず長母音 aa で現れ、i は必ず jii の形で現れるということである。『土漢詞典』との対応
 関係で言えば、天祝方言では語頭において a と aa, i と ii は中和していることになる。他の
 長母音と違って、aa と ii は語中においては『土漢詞典』と比較的よく対応する。すなわち、
 語中では aa, ii の長母音はよく保存されていることになる。さらに詳しく言うと、次のとおり
 である。『土漢詞典』で語中に aa を持つ語で天祝方言でも aa を持つ語は 96語あるのに対し、
 『土漢詞典』の aa が天祝方言で a に対応するのは、開音節で5語、閉音節で14語ある。すなわ
 ち語中の aa は比較的よく対応する。また開音節のほうが閉音節より長母音がよく対応する。『土
 漢詞典』で語中の a が天祝方言で aa のものが10語ある。『土漢詞典』で語中に ii を持つ語で天
 祝方言でも ii を持つ語は29語ある。i に対応するのが1語、ə に対応するのが3語ある。また ɛ
 に対応するのが4語ある。また『土漢詞典』で語中の i が天祝方言で ii のものが3語ある。

3. 二重母音、三重母音

『格薩爾文庫』第三巻の5ページには二重母音として iɛ, ia, uii, ua, uaa, ɛi, əu, əuu の8
 母音、三重母音として uɛi, uəu, iau の3母音の計11母音を挙げている。しかし本文にはさらに
 iə, uə, uɛ, iəu, iəuu, iauu, iuu, əuu という重母音が出現する。それはともかく、これらの重母
 音が他の母音と自由交替する語がかなりの数見られる。こういった交替をしているか、その可能

性を記すと次のようになる。

| 重母音 | 短母音 | 長母音 | 重母音 |
|--------------|------------|-----|--------|
| iε | ə | ii | |
| uii | | ii | |
| ua | u, ɔ, o, a | | |
| uə | o | | |
| uəu | u | | |
| εi | ε | | aii |
| əu | | | əuu |
| uε | | | uii |
| iε | | | ia, εi |
| ia <u>u</u> | | | iəu |
| iə | i | | |
| ia <u>uu</u> | | | əuu |
| iu <u>u</u> | | | əuu |

結局、他の母音との交替形を持たない重母音は uaa, uεi, iəuu の3つしかない。uaa を除いて、これらの母音を有する語は tholqusi 162, 869 (tolghui) 「頭」, liəuu 1795, 2786, 2862 (liu) 「龍」等、非常に少ない。

4. 自由交替（母音）

天祝方言の資料は非常に多くのバリエーションが見られる。自由交替の関係になっている母音の対およびその数次のようである。

| | | | | | |
|---------|----|----------------|----|------------------|----|
| ə ~ a | 44 | ə ~ u (第一音節のみ) | 25 | ə ~ o | 1 |
| ə ~ u | 3 | ə ~ ε | 5 | ə ~ ゼロ (動詞語幹を除く) | 9 |
| ɔ ~ ua | 5 | ɔ ~ ɔɔ | 3 | ɔ ~ o | 11 |
| ɔ ~ oo | 1 | ɔ ~ ua | 2 | ɔ ~ a | 1 |
| a ~ u | 2 | a ~ o | 12 | a ~ ua | 3 |
| u ~ uə | 4 | u ~ wə | 1 | u ~ ua | 3 |
| ua ~ a | 1 | uε ~ uii | 1 | uu ~ ə | 1 |
| iε ~ ə | 3 | iε ~ ii | 1 | iε ~ ε | 3 |
| iε ~ εi | 4 | ε ~ εi | 6 | aii ~ εi | 1 |
| ε ~ εii | 1 | ii ~ uii | 1 | ii ~ a | 1 |
| | | | | əuu ~ əu | 10 |
| | | | | ua ~ o | 1 |
| | | | | iε ~ ia | 1 |
| | | | | iε ~ εε | 1 |
| | | | | ε ~ ii | 8 |
| | | | | ii ~ ə | 3 |

| | | | | | | | |
|---------------------|----|--------------|---|------------------|---|----------|---|
| iə ~ i | 1 | iau ~ iəu | 1 | iauu ~ iuu ~ əuu | 1 | u ~ wə | 1 |
| əu ~ o | 1 | ua ~ wa | 2 | uəu ~ u | 1 | ək ~ əuu | 1 |
| aa ~ a | 33 | aa ~ ə | 1 | uaa ~ ua | 2 | ii ~ i | 5 |
| ii ~ ə | 2 | oo ~ o | 4 | ωω ~ ω | 3 | uu ~ u | 1 |
| uu ~ ə | 1 | 母音 ~ ゼロ (語頭) | | | 5 | | |
| 母音 ~ ゼロ (語末, 動詞語幹末) | 11 | | | | | | |

5. ə と u

天祝方言では、第一音節において ə ~ u の自由交替が21例見られる。これらの多くは語頭に唇音を持っている。一方、唇音以外の子音の後では、第一音節にあらうとなかろうと, ə, u のいずれかになっていて自由交替はしない。『土漢詞典』の表記では唇音の後では u, それ以外の子音の後では i 又は u になっている。那龍溝方言の資料でもほぼ同じである。これに対し、席元麟 (1986) の音素分析では、唇音及び、軟口蓋、口蓋垂音の後でのみ u, それ以外で i になっている。

6. ω

『土漢詞典』の短母音に対応する天祝方言の ω はほとんどの場合, x, q の直後あるいは k, x の直前に現れ, そのうちあるものは u, o, ua と交替する。この母音を音素として認める根拠は乏しい。類似した環境で東溝方言を記述した『土族語詞彙』では音素 /o/ を認定し, g, x, ŋ の直前で異音 [ɔ], g, x の直後で異音 [u] が現れるとしている。『土漢詞典』では [u] を音素 /u/ に帰属させている。那龍溝方言を記述した *Dictionnaire Monguor-Français* (以下 DMF と略す) では ġ の直後でのみ ū が現れる。

天祝方言の ω で『土漢詞典』の長母音 oo に対応する語が13語見られるが, au に対応するのは1語しかない。DMF の ū は『土漢詞典』の au に対応するから、天祝方言の ω は那龍溝方言の ū とは対応しない。

7. 上昇二重母音

天祝方言ではいわゆる子音の口蓋化を母音の性質として表記したものに, ie, ia, iə があり, ほとんどは舌先音の直後に現れる。この現象は他の方言と矛盾しない。ie は ei, ə, ii, ia と交替し, ia は ie と交替し, iə は i と交替する例がある。

また子音の唇音化を母音の性質として表記したものに, ua, uə があり, 軟口蓋音, 口蓋垂音, 舌先音の直後に現れる。ua は ω, u, a, o と交替し, uə は u, ə と交替する例がある。哈拉直溝方言の資料では uo は軟口蓋音, 口蓋垂音の直後にのみ現れるが, 那龍溝方言の資料では軟口蓋音, 口蓋垂音, 舌先音の直後に現れる。

口蓋化, 唇音化の記述は資料によって精密度が違う。『土族語簡誌』(p. 7) では t, d, n, l の 4 子音は e, ee 前で口蓋化するとしか述べられていない。『土族語詞彙』(pp. 10-11 及び p. 17-18) では e, e は口蓋化すると述べられているが, その環境に関する記述はない。o, u についても唇音化の説明はあるが, その環境に関する記述はない。『土漢詞典』(p. 10) では口蓋化の説明もなく環境は記されていない。席元麟(1985)には口蓋化を表す母音しか記述されていない。

8. 『土漢詞典』の ee/ai 及び高母音化

天祝方言には e ~ ii の交替をする語が 5 例ある。『土漢詞典』と『土漢対照詞彙』でバリエーションの取り上げ方が違っているが, 東溝方言でも類似した交替形がある。ただ, 東溝方言では ai ~ ii の交替は存在するが, ee ~ ii の交替は存在しないという違いがある。哈拉直溝方言を記述した Тодаева の資料でも『土漢詞典』の ai に対応する母音にのみ高母音化が起こっている。東溝方言の ai と ee の違いは天祝方言でも中和しているが, どちらも高母音化しうるし, 全体として天祝方言のほうが多く高母音化している。⁽³⁾

| 天祝方言 | | | Тодаева『土漢詞典』 | | 『土漢対照詞彙』 | | |
|--------------|------|----------------|---------------|-----------|----------|--------|-------|
| ε | ～ | ii | | ee | ee | | |
| pεsə | 1670 | piisə 4458 | bēse- | beesi- | beesi- | | 喜ぶ |
| (pεisə 3892) | | | | | | | |
| ntərs | 4278 | ntərii 2388 | | ndiree | ndiree | | ここ |
| | | fəlii 2446 | | fulee- | fulee- | | 赤くなる |
| | | khiilε 3015 | kēlie | keele | keele- | | 腹 |
| | | kii 1359 | gē- | gee- | gee- | | 置く |
| | | ntçiinaa 273 | ndžiēn | njeenaa | njeenaa | | 自分 |
| | | tiiran 606 | dēran | deeren | deeren | | 四 |
| ε | ～ | ii | | ai ～ ii | ai ～ ii | | |
| tçhε | 2539 | tçhii 3827 | | qai- qii- | qii- | | 明ける |
| pεrə | 3213 | piirə 4037 | bēri | bairi | bairi | biiri | 辺 |
| pε | 1036 | pii 2227 | | pai pii | | | (終助詞) |
| pəls | 2176 | | bulē | bulai | bulai | bulii | 子供 |
| | | phii 3105 | pī | pai | pai | | 炕 |
| | | thiil-aa 3482 | tēla- | taili- | taili- | tiili- | 脱ぐ |
| | | niiman 3973 | nīman | naiman | naiman | niiman | 八 |
| | | spii 3950 | sbē | sbai | sbai | | ハダカムギ |
| | | thamiinkə 4010 | | tamainge | | | そのような |

東溝方言には後舌母音にも高母音化の例がある。au ~ uu の交替以外に oo ~ uu の交替も

ある。天祝方言ではこういった例は見あたらない。

| 天祝方言 | Тодаева『土漢詞典』 | | 『土漢対照詞彙』 | |
|-------------|---------------|--------|---------------|--------------|
| wor 3476 | ūr | aur ~ | uur | aur ~ uur 蒸気 |
| jəuu 73 | yū- | yau- | yau- ~ | yuu- 行く |
| ɕəuu 230 | šū | xau ~ | xuu | xau ~ xuu 鳥 |
| tɕəuura 659 | džiōro | jooro~ | juure jooro ~ | juure 間 |

9. 『土漢詞典』の au/uu

『土漢詞典』の au と uu は哈拉直溝方言では中和しているが、天祝方言でも中和している。

| 天祝方言 | 哈拉直溝方言 | 東溝方言 |
|-----------------------------|------------|---------------|
| (1) əuu | ū | au |
| ɕəuu 230 | šū | xau 鳥 |
| jəuu 73, 152 | yū- | yau- 行く |
| məuu 582 (məu 380) | mū | mau 悪い |
| pəuu 110 (pəuu 4727) | bū- | bau- 降りる |
| sqəuu 4016 (sqəu 2679) | sexū | sghau 時 |
| səuu 29 (səu 4698, so 2438) | sū- | sau- 座る |
| tɕəuu 3361 | džū | jau- 咬む |
| təuu 3429 | dū | dau 声 |
| təuula 107 | dūla- | daula- 歌う |
| təuuwta 161 | dūda- | dauda- 呼ぶ |
| thəuu 922 (thəu 4456) | tū- | tau- 追う, 吹く |
| tsəuura 2009 | dzūri | zauri ナツメ |
| (2) əuu | ū | uu |
| ɕərəuu 103 | širū | xiruu 土 |
| khəuu 4125 | kū | kuu 息子 |
| məuula 1147 | mūla- | muula- 思う |
| wəuu 1523 | ū- | uu- 飲む |
| (3) əuu | iū | uu |
| tɕəuutələ 2899 | džiūdēlie- | juudile- 夢を見る |
| tɕəuutən 2899 | džiūden | juudin 夢 |
| (4) əuu | iū | iu |
| nəuu 3465 | niū- | niu- 隠れる |
| təuula 223 | diūli- | diula- 跳ねる |

| | | | | |
|-----|---------------------------|--------|--------------|----|
| | təuu 1375 | diū | diu | 弟 |
| (5) | əu | ū | uu | |
| | səul 1149, 2786 | sūl | suul | 尻尾 |
| (6) | əu | iū | iu | |
| | nəur 425, 4065 | niūr | niur | 顔 |
| (7) | əu | iū | uu | |
| | ɕəur 4136 | šiūr | xuur | 箸 |
| (8) | o | ū, o | au | |
| | solqa 2944 | sūlǵa | saulgha | 桶 |
| | xolə 2733 (foolə 174) | xōli- | hauli- | 走る |
| (9) | əuu | ō, u | uu, oo | |
| | tɕəuura 659 (tɕəura 4723) | džōro | juure, jooro | 間 |
| | tɕəuura 4848 | džuri- | juuri- | 書く |

(3)はТонаеваの資料では [s, dz]と [ɕ, dz]を子音では区別しないで、後者の場合に渡り音 i を挿入するため(2)と違って見えるが、(2)となんら変わりはない。しかし(4)は(3)とは違って哈拉直溝方言にも東溝方言にも渡り音が残っている。天祝方言では渡り音がない語「弟」もある。この語はHeissig (1980) でも渡り音がない (dō GR 19)。『土族語話語材料』にも渡り音のない形 [d u:] (p. 179) が記載されている。(5)は(2)と同じものであり、(6)は(4)と同じものである。というのは əuu と əu が交替する語は多数あるのに対し、əu でしか現れない語はごく少数しかないからである。上に記したものの以外に əuu ~ əu 交替には次のものがある。『土漢詞典』の au, uu, oo のいずれに対応するものにも交替の例が見つかる。thəuu 922, 4452 ~ thəu 4456 (tau-) 「追う」, ɕəuu 33 ~ ɕəu 4582 (xu-) 「醸す」, ɕəuu 3538 ~ ɕəu 4685 (xu-) 「掃く」。

10. k, ŋ の直前の母音

天祝方言にはk の直前で a ~ o の交替をする語が5例ある。交替はしないがa を持っている語も o を持っている語もある。『土漢詞典』ではg の直前で a ~ o が交替する例は見られないが、a を持っている語と o を持っている語とある。天祝方言で a ~ o の交替を持ち、『土漢詞典』で a を持つ語には, khak kuaa 2208 ~ khok kuaa 2422 (kag gua) 「快不得」, ştak 2967 ~ ştok 1213 (shdag) 「兆し」, tɕhakraa 4222 ~ tɕhokraa 2902 (qagraa-) 「叫ぶ」, thakɕə 4487 ~ thokɕə 3605 (tagxi) 「あっち」があり、天祝方言で a ~ o の交替を持ち、『土漢詞典』で o を持つ語には, nakɕtɕəlqa 2840 ~ nokɕtɕəlqa 1885 (nogxilgha-) 「過ぎる」, tontak 380 ~ tontok 1899 (dundog) 「原因」があり、天祝方言でも『土漢詞典』でも a を持つ語には, khətak 3831 (kadag) 「ハダク」, kuiitak 4435 (guidag) 「綯子のハダク」, lantɕak 4749 (lanqag) 「苦難」, phəɕak 4083 (pujag) 「豆」, rətak 3609 (aradag) 「獣」, rtɕanak 4436

(rjanag)「漢族の土地」があり、天祝方言で a, 『土漢詞典』で o の語には, pəuʂtak 4092 (boorzog)「ボールツォク」, tʂhak 4083 (qog)「東ねてあるもの」があり、天祝方言でも『土漢詞典』でも o を持つ語には, aalok 411 (alag)「斑」, aarok 3277 (arag)「籠」, pəlok 3768 (bulag)「泉」, tʂhiitok 3362 (qiidag)「よく太りたくましい」, tʂhok 34(qag)「時」, vaarok 4455 (waarag)「送親」, tʂatʂok 3843 (qogjog)「酒杯」, tʂənthok 1168 (jam/ntog)「半分」がある。こういう状況を観察していると、母音は a でも o でもいいのではないかと思える。

天祝方言では ŋ の直前では a, ua, ia のように a を主母音とするものしか現れない。laŋxua 1405 (longhu)「瓶」, ntəʂaŋ 1117 (ndughong)「大経堂」, paatʂaŋ 4079 (baajong, baazhong)「酒杯」, pulaŋ 614 (bulong)「隅」, səlaŋqu 3768 (sulongghu)「虹」, ʂaŋ 3390 (xong)「(門)杜」, taliaŋ 3017 (daliang, dalang)「分家」⁽⁴⁾, taŋ 36 (dong)「ホラ貝」, taŋtə 3263 (dongxi)「物」, tʂhankaŋ 3430 (qonggong)「窓」, tʂhalaŋ 4849 (qalong)「竹籠」, tʂhəkulaŋ 2983 (qigu xikong)「昨晚」, tərəŋ 111 (di/arong)「まだ」, tsənta 35 (zongda)「以来」, twɣlaŋ 113 (doghulong)「びっこ」, vərəŋ 837 (warong, barang)「右」, xalaŋ 693 (halong)「熱い」, xsəŋ 2622 (szong)「話」, xuaŋqor 4109 (hongghur)「紫色」, thonku 396 ~ thonqu 388 (tungu-)「拾う」の k, q の直前の [ŋ], [ɳ] は n で記されているから、ŋ の直前に o が現れることはない。

モンゴル文語で n で終わる語のうち、土族語で ŋ で終わる語がある。その場合、東溝方言では warong ~ barang「右」, halong「熱い」, jong「百」, urong ~ uron「場所」のようにほとんどが ŋ の直前に円唇母音を持っている。天祝方言ではこの位置に a が現れる。tʂaŋ 4137「百」, vərən 1012「場所」, vərəŋ 837「右」, xalaŋ 693「熱い」。

11. 『土漢詞典』の e に対応する天祝方言の a

『土漢詞典』では e と記されている母音が天祝方言では語末, r, n の直前で広い変種 a で記されている語が数多く見られる。語末の例としては, funəka 2733 (funige)「狐」, khəŋkarʂka 1554 (kingerge)「太鼓」, khutʂəla 175 (kujile-)「降伏する」, na 99 (ne)「これ」, nəka 35 (nige)「一」, nənpa 3143 (nimbe-)「覆う」, nkuska 2959 (ngusge)「鳩」, nəra 161 (nire)「名前」, phiila 36 (piile-)「吹く」, ra 263 ~ rə 34 (re-)「来る」, -ra 152 (-re)「(位格)」, rtəa 38 ~ rtə 195 ~ tətə 97 (uje-)「見る」, səuuka 4144 ~ səuuqa 4112 (suuge)「イヤリング」, ska 101 (sge-)「見る」, ʂka 34 (shge)「大きい」, ʂtərka 4225 ~ ʂtərqa 4040 (shdirge)「脱穀場」, tərə 37 (dire)「上」, tərka 2424 (jirge)「心」, tərka 2063 (jirge)「群」, tha 174 (te)「あれ」, thərqa 4272 (tirge)「車」, thinkəra 2456 (tingere)「空」, tielka 3941 (deelge)「縄」, tsəla 2735 (zeele-)「迎える」, r の直前の例としては, jar 38 (yeri-)「探す」, kar 1362 (ger)「家」, khəŋkarʂka 1554 (kingerge)「太鼓」, thienkar 322 (tinger)「天」, n の直前の例としては, khan 164 (ken)「誰」, rkan 414 (rgen)「他の」, tiiran 606 (deeren)「四」。

12. 第一音節の ə

天祝方言において第一音節の母音が弱化しているものが多数見られる。『土漢詞典』で第一音節が a のものに, khetak 3831 ~ khatak 1322(kadag)「ハダク」, ləqaa 1635 (laghaa-)「選ぶ」, mənən 1799 (manaan)「霧」, məxa 31 ~ muxa 3334 (maha)「肉」, phəqa 413 (pagha-)「打つ」, phəqaltə 73 (baghaldū-)「戦う」, t̬ənthok 1668 (jan/mtog)「半分」, t̬əqaa 3763, 4101 (daghaa-)「従う」, t̬əq̌wla 127 (da/oghuli-)「連れていく」, tsənkaŋ 2786 (zangang)「鬚(タテガミ)」, vərəŋ 837 (warong, barang)「右」, vəlqaasə 4856 (walghasi, balghasi)「城」があり、『土漢詞典』で第一音節が o のものに, əřq̌w̌l 4028 (xořghul)「占い」, məsə 1631 ~ musə 693 (mosi-)「着る」, nəxuui 197 (nohui)「犬」がある。

13. 動詞語幹末

『土漢詞典』では動詞語幹末は多くは i になっているが、天祝方言では ə, a, ゼロになっている。a のものには次のような例がある。aarella 3150 (arili-)「晴れる」, khumura 2481 (kumori-)「留める」, khura 1036 (kuri-)「着く」, nəkha 3396 ~ nəkhə 3398 (neeki-)「指でつまむ」, pəla 4163 (buli-)「奪う」, pəta 1359 (budi-)「塗る」, ruasa 3705 (urosi-)「流れる」, saťca 377 ~ saťcə 4037 (saji-)「撒く」, şkata 1898 (shgedi-)「大きくなる」, ťaťcəla 3411 (jajilli-)「咬む」, ťəuura 4848 ~ ťəuure 4849 (juuri-)「書く」, ťəhəqanta 1897 (qighaandi-)「白くなる」, ťəq̌wla 127 (da/oghuli-)「連れていく」, tola 1122 (dooli-)「なめる」, w̌wsa 229 ~ w̌wsə 895 (oosi-)「生長する」, vara 448 (wari-)「取る」, xana 3656 (hani-)「閉める」 xara 1380 (hari-)「帰る」, xəuula 3418 (hauli-)「剥ぐ」, xola 817 ~ xolə 817 (hauli-)「走る」。動詞語幹末がゼロのものは最後の子音が l, r, s の場合に起こる。

『土族語話語材料』でも xargasa 559 (ha/ergisa)「向きを変えると」のように ə でない母音が現れることがある。

14. 母音のまとめ

土族語の方言間の違いで母音の面から見て最も重要なものは次の対応である。

| | 東溝方言 | 哈拉直溝方言 | | 那龍溝方言 | 天祝方言 |
|-----|--------|-----------|-------------------|-----------|-------------------|
| | 『土漢詞典』 | Тодаева | Schröder | DMF | |
| a 類 | uu | ū, ō, u | o, ō, iu, u, (uo) | ū | əuu |
| b 類 | au | ū, ō | o, ō, (uo) | ū̄ | əuu, o |
| c 類 | oo | ō | o, ō, uo | ō, uo | o, ω, ωω |
| d 類 | ee | ē, ie, iē | e, ē, ie | ē, ie, iē | ii, iε, ε, εi, εε |
| e 類 | ai | ē, ī | i, ē, e, ä | ē̄ | ii, ε, εi |

哈拉直溝方言は a 類と b 類がほぼ中和しているが、天祝方言もまったく同じ特徴を持っている。d 類と e 類も哈拉直溝方言ではほぼ中和しているが、天祝方言でもやはりほぼ中和している。天祝方言の特徴はさらに d 類と e 類の一部が ii に対応することである。

15. 子音

子音の表として次のものが掲載されている。ただし* は表にはないが本文中に現れる子音である。

| | | | 両 唇 音 | 唇 齒 音 | 齒 音 | 齒 茎 音 | そ り 舌 | 硬 口 蓋 音 | 軟 口 蓋 音 | 口 蓋 垂 音 |
|-------|----|----|-------------|-------------|--------|-------------|-------------|------------------|------------------|------------------|
| 閉鎖音 | 無声 | 無気 | p | | | t | | | k | q |
| | | 有気 | ph | | | th | | | kh | |
| 破擦音 | 無声 | 無気 | | | ts | | tʂ | tɕ | | |
| | | 有気 | | | tsh | | tʂh | tɕh | | |
| 摩擦音 | 無声 | | ɸ* | f | s | | ʃ | ç | x | |
| | 有声 | | | v | z* | | r | ʒ* | | ʁ |
| 鼻 音 | | | m | | | n | | ɳ | ŋ | |
| 側面音 | 無声 | | | | | ɭ | | | | |
| | 有声 | | | | | l | | | | |
| 半 母 音 | | | w | | | | | j | | |

この表と共に次のような説明がある。

(1) 無声摩擦音は有気音である。

(2) r は音節初頭で [ʀ], 音節末で [r]。

(3) x は音節初頭で [x], 音節末で [χ]。

(4) ʁ は稀にしか現れない。チベット語からの借用語にのみ現れる。

(5) ph, f, v, th, ts, tsh, s, tʂ, tʂh, tɕ, tɕh, ɕ, j, ɳ, kh 等は音節初頭にのみ現れ、音節末には現れない。p, m, t, n, l, r, k, ŋ, x, q 等は音節初頭にも音節末にも現れる。

そのうち ŋ だけは音節末にのみ現れ、音節初頭には現れない。

(5) の説明では不十分である。ʃ, ɭ, w, j, ʁ についての説明がない。これらの子音はテキスト本文のデータでは、音節末には現れない。(5)の説明に反して q が音節末に現れる例は見あたらない。一方 k が音節末に現れる例は非常に多い。この k が実際には [q] と発音されるというように理解するならば、(3)の説明とも矛盾しない。というのは以下の語の語末を見れば、他の資料ではほとんどが口蓋垂音だからである。ただし DMF の ǰ と Тодаева の ɳ は IPA の [g] に置き換えた。

| 『土漢詞典』 | 『土族語 簡誌』 | 『土族語 詞彙』 | DMF | Тодаева | 天祝方言 |
|--------|-------------|-------------|-----|---------|-----------------|
| pujig | g | g | g | g | phətɕak 2677 文字 |
| qirag | g | g | g | g | tɕhərok 171 兵士 |
| qijig | g | g | g~g | g | tɕhətɕok 1185 花 |
| bulag | g | g | g | g | pəlok 3768 泉 |
| pujag | g | g | g | g | phətɕak 4083 豆 |
| rog | g | g | g | g | rok 173 方向 |

また語中でも次のような例がある。

| | | | | | |
|-----------|---|---|---|---|----------------|
| doghulong | g | g | g | g | twɕlaŋ 113 びっこ |
|-----------|---|---|---|---|----------------|

『土漢詞典』ではghの次に母音が書かれているが、『土漢対照詞彙』では doglong であり、母音はない。他の資料でも後ろの母音はない。(3)に明記されているように天祝方言のxはこの位置では口蓋垂音 [χ]である。また音節末で k と x が交替する次のような例があることも音節末のkが口蓋垂音であることの証拠になる。aalok 411 ~ aalox 2907 (alag)「斑」, moklok 605 ~ moxlox 4155 (moglog)「丸い」。

ŋ は音節初頭に現れないと述べられているが, nkhuuijii ʂɒmo 2309「布谷姑娘」という語がある。この語は nkhuuijii ʂnokmo 1955 という形でも現れるので, ŋ ~ n の交替をしている。チベット文語形はkhu byug dang sngon moであるから, ŋ が本来の子音であり、音節初頭に現れる。

閉鎖音, 鼻音, 側面音が歯茎音(原語では舌尖中)で、破擦音, 摩擦音が歯音(原語では舌尖前)であるというのは、他の資料には見られない。この記述がどの程度正しいのかは検討を要する。というのは, tɕ, tɕh, ɕ と j が同じ欄(原語では舌面前)に記載されているのは精密さに欠けるからである。前者は前部硬口蓋音であり、後者は硬口蓋音である。同様に軟口蓋音(原語では后面后)と口蓋垂音(原語では小舌)の欄の記載の仕方にも問題がある。

本文には ɸ が語頭子音連続の第一子音としてのみ現れるが、上述の表には記載されていないし、子音連続のリストにも載っていない。また, ʱz という子音連続が ʱzə 786「碧玉」という語に現れるが、この連続はリストには載っていないし、第二子音 z は上述の表に載っていない。wəzə 3293「武芸」, zətɕan 4424「一件」に現れる z も上の表に載っていない。

16. ʱ

ʱ はチベット語からの借用語にのみ現れるという説明がある。語頭で, ʱaŋ 57 < Tib. dbang (rghang)「権力」, ʱaŋɕər 4114 (wangxir)「長衣」, ʱatɕhap 1634「頭飾り」, ʱlaŋ 34 < Tib. gling「朗部(地名)」, ʱlaŋwotɕe 101 < Tib. glang bo che, アムド方言 ʱlaŋwotɕe 80 (alangwuqee)「象」, ʱlur nkɕwar 935「龍城」, ʱomaa 1446「乳」, ʱzə 786 < Tib. gyu, アム

ド方言 *ɛzə* 781「碧玉」の8例, 語中で, *ɬaɣaŋ* 154 < Tib. *lha khang*, アムド方言 *la ɣaŋ* 132 (*laghang*)「神殿」の1例しか見あたらない。『土漢詞典』の綴りでは *w*, *gh*, 母音のいずれかに対応する。

17. *n*

天祝方言の資料には他の方言には現れない子音 *n* が現れる。その現れる環境で最も特徴的なのは *m* と非円唇母音に挟まれた位置であり次のような語である。*aamne* 514 (*aanee*)「お爺さん」, *ɕəmnaɾtɕii* 4207 (*ximer* ...)「額に酥油花を塗る」, *jəmnaɪ* 463 (*imel*)「鞍」, *mnanku* 4112 (*mengu*)「銀」, *thiɕmnɛn* 4277 (*timeen*)「ラクダ」。これ以外の環境でも *n* は現れるが, 多くは次のように *n* との交替形を持っている。*na* 173 ~ *na* 99 (*ne*)「これ」, *-sannii* 2227 ~ *-sannii* 2458 (*-sannii*)「形動詞過去+主観範疇」, *maanii* 2473 ~ *maanii* 2456 (*maalii*)「急いで」, *nara* 1363 ~ *nara* 2828 (*nire*)「名前」。

18. 音節構造

6 ページの解説には(1)V, (2)CV, (3)CVV, (4)CVVV, (5)CVC, (6)CVVC, (7)CCV, (8)CCVV, (9)CCVC, (10)CCVVCの10通りの音節のタイプが記されている。ただしCは子音, Vは母音(長母音を含む), VVは二重母音, VVVは三重母音である。(11)V C, (12)V V C, (13)V V V C, (14)C C V V V, (15)C C V V V Cのタイプが記載されていないが, (11)は存在する。例えば, *aal ta* 3761 (*aalda-*)「失う」, *aal tɕ qɑ* 1609 (*aaldagha-*)「開く」の第一音節がそうである。(12)(13)(14)(15)は本文中にも存在しない。二重・三重母音で始まる語はないし, 三重母音自体が少ないので, これは当然と言える。6 ページの表は短母音と長母音とを区別していないが, (1)は長母音しか存在しない。というのは, そもそも短母音で始まる語は天祝方言には存在しない。*a* と *i* は語頭では長母音でしか現れないし, それ以外にも『土漢詞典』で短母音で始まっている語には天祝方言では語頭に子音が添加されているか, 半母音になっている。例えば, *vəra* 816 (*uro-*)「入る」, *woro* 3391 (*uroo*)「死体」, *wkua* 1331 (*ugo*)「語」, *wlua* 160 (*ula*)「山」, *wtɕh ə* 1133 (*uqi-*)「飲む」。*e*, *ee*で始まる語はそもそも『土漢詞典』にもなく, *o* で始まる語も1例しかない。(2)(5)(7)は短母音も長母音も存在する。

音節初頭子音連続の型として, 2 ページに次の39の型が掲載されている。(配列を少し変えた。)

() は本文中に存在しないもの, * は表にはないが, 本文中に現れるものである。

| | | | | | | | | | | | | |
|----|----|-----|------------|------|----|-----|---------|--|------|-----|-----|-----|
| m- | mp | mph | mts* mtsh* | | | | mtɕh mn | | | | | |
| n- | | | nts | ntsh | nt | nth | ntɕ ntɕ | | ntɕh | nk | nkh | nq* |
| ŋ- | | | | | | | | | | | ŋq | |
| w- | | | wt* | | | wl | wtɕ* | | wtɕh | wk* | | |
| s- | sp | | sm | st | | | | | | sk | sq | |

| | | | | | | | |
|-----|------|------|-----|---------|-----|----|----|
| ʃ- | ʃp | ʃts | ʃt | ʃn | ʃtɕ | ʃk | |
| r- | rp | | rt | rl | rtɕ | rk | rv |
| ɕ- | | | | | ɕtɕ | | |
| x- | | | xt | | | xk | xq |
| ɤ- | | ɤʒ* | | (ɤn) ɤl | | | |
| l- | lw* | | | | | | |
| tʃ- | tʃw* | | | | | | |
| ɸ- | ɸs* | ɸts* | ɸɕ* | | | | |

子音連続に関して次のような説明がある。

- (1) r は子音連続中では [r]。
- (2) xq の x は実際は [x]。
- (3) n は k, kh の前で [ŋ]。
- (4) ŋ は q の前で [N]。
- (5) ʃ と ɕ は tɕ の前で交替する。
- (6) ʃ と s は t の前で交替する。

上の子音連続リストにはあるが、本文には ɤn の例が見あたらない。上述の説明でも、また子音連続のリストでも nq は現れないが、本文には nqɕ 3394 (nghai-) 「開ける」, nqusə 3761 (nghusi) 「屁」のように nq が現れる。もちろんこの n は [N] である。ŋq も本文中に ŋquaa 3373 (nghua-) 「洗う」, ŋquaasə 157 (nghuasi) 「毛」のように現れる。この ŋ ももちろん [N] である。nq と ŋq とをなぜこのように区別するのかわからない。また、このリストにはないが、本文には mtsatak 4436 「絹のハダク」, mtsham 2439 「禪修行」, təuwwta 161 (dauda-) 「呼ぶ」, tʃuaa ɕii ʃtak wtɕap 904 「人瑞相」, wkua 651331 (ugo) 「語」, ɤzə 786 「碧玉」, lwər tɕan san 2527 「龍王神」, tʃwak 868 「岩石」のように, mts, mtsh, wt, wtɕ, wk, ɤz, lw, tʃw の子音連続が存在する。また ɸsaŋ 158 「柏桑」, ɸtsolkhaa 4137 「講神經」, ɸɕuan 1523 (shong, xong) 「双」のように, ɸ を第一要素とする子音連続 ɸs, ɸts, ɸɕ が存在する。さらに nkhwər 935 「城」のような 3 子音連続が存在する。⁽⁵⁾

子音連続における交替として tɕ の前の ʃ ~ ɕ, 及び t の前の ʃ ~ s の説明があるが、本文中にはさらに多くの交替の例が見られる。子音連続の第一子音として r ~ n ~ w ~ ɸ の型, s ~ ʃ ~ x ~ ɸ の型, ɸ ~ ɸ の型がある。

子音連続における第一子音としての ʃ と ɕ は天祝方言では相補分布している。他の記述でもだいたいそうになっている。ただし席元麟 (1985) のデータには t, k の前で ʃ と ɕ が自由交替している例が見られる。

天祝方言の本文では音節の切れ目ごとに空白が挿入されている。そして音節初頭子音連続は、

語頭のみならず語中にも適用されている。土族語の通常の記述においては、子音連続は語頭の例しか記されていないのであいまいであるが、s は音節末に起こりうる子音であるから「鳩」は ngus-ge と音節に切れる。これに対し天祝方言では s は音節末には現れないと明記されているので、nku ska 2959となる。音節初頭子音連続の第一子音のうち、m, n, ŋ, r, x は音節末にも現れうる子音である。ɕtɕər pəuu 3104 (xjirbuu)「幸福な」は ɕtɕət pəuu 1959と交替し、r と t は音節末で交替するというような一般的な現象が認められるので、ɕtɕə rpəuuと切るのはまずいことがわかる。saŋ rtɕii 4190 ~ saŋ tɕii 1521「仏」の場合は r とゼロとが交替している。この交替は音節初頭でも音節末でも起こりうるが、『土漢詞典』で sangrji ~ sangxji というように r と x が交替しているので、音節初頭だと考えたほうがつじつまがあう。しかし、aa ntɕə 196 (anjii)「どこ」と ɕən tɕuən 4265「敬酒」はなぜこのように切り分けるのかという説明はできない。「回る」という語は ɕər kə 2491 ~ ɕə rkə 2921 (h/xargi-, h/xxergi-) のように二通りの切り方が出現する。音節初頭の子音連続はチベット語からの借用語のみならず、wkua 1331 (ugo)「語」、təuu wta 161 (dauda-)「呼ぶ」のようにモンゴル系の語彙にも見られる。

19. 子音の自由交替

19. 1. 語頭子音連続における第一子音

(1) r ~ n ~ w ~ ∅ 交替, (2) s ~ ʂ ~ x ~ ∅ 交替, (3) ʈ ~ ∅ 交替の三つのグループに大別できる。常にこの全ての交替形が現れるわけではない。

(1) の例としては、rkan 414 ~ nkan 2728, 3262 (rgen)「他の」、rtie 607, 980 ~ ntia 980 ~ wtie 1367 ~ tie 3390 (rde, ude, de)「門」、saŋrtɕii 4190 ~ saŋtɕii 1521 (sangrji, sangxji)「仏」、wkua 1331 ~ kua 4572 (ugo)「話」、wlama 1520 ~ lama 2675 (lama)「ラマ」、rtie 2976 ~ tie 1147 (ide-, de-)「食べる」、rtɕə 195 ~ wtɕə 272 ~ tɕə 97 (uje-)「見る」、rtaxo 4451 ~ wtaxo 4430「主人」、nthar 159, 1121 ~ thar 1985 (tash)「石」、ntɕuan 4387 ~ tɕuan 2491「転」、ntur 1587, 3936 ~ tur 224 (udur, dur)「日」、ntɕiinaa 273 ~ tɕiinaa 4725 (njeenaa)「自分」、ntərii 2388 ~ thərii 98, 107 (ndiree)「ここ」、ntɕaŋ 28 ~ tɕaŋ 4137 (jong)「百」⁽⁶⁾、ntshovaa 4868 ~ tshovaa 4579「部落」、ntshoklaa 2678 ~ tshokla 38 (nqogla-, qogla-)「集まる」、tɕənnkan 2448 ~ tɕənkan 2964「すぐに」、nqɕ 3394 ~ qɕi 2901 (nghai-)「裂ける」、nkaa 4002 ~ khaa 3149, 3195 (kaa)「尺」、nkantɕaŋ 4038 ~ kantɕaŋ 396 (ganjang)「全部」、wtuantii 3896 ~ tuantii 869「うずくまる」、rtiesə 3347 ~ tiesə 3143 (deesi-)「広げる」、ɕtɕanntsən 4672 ~ ɕtɕantsən 3697 (simqan)「野生の」がある。

(2) の例としては、stsqa 903 ~ ʂtaqa 584 (szagha-)「問う」、stsu 1149 ~ ʂtsu 106, 1983 (fuzu, szu)「水」、ʂkəlie 1212, 1321 ~ xkəlie 463 (hgile-)「要する」、ʂtsii 37 ~ tsii 2801「頂」、kharʂtsak 4397 ~ khartsak 4465 (gaarzag, karza)「酒杯」、spaawak 3490 ~ paawak

4077 (sbaawag, shbaawag) 「蛙」, xser 784 ~ ser 4299 (seer) 「銭」, aamaşkii 116 ~ aamaxkii 4398 「どうする」, -laşke 612 ~ -laxke 1024 「～させておけ」がある。

(3) の例としては, şsaŋ 158 ~ saŋ 4391 「香」, şsaŋ ɕtɕalo 617 ~ saŋ ɕtɕalo 3826 「桑嘉洛 (人名)」がある。

19. 2. 音節初頭子音交替

調音点に違いがあるものには, m ~ n 交替として, mtɕherla 4003 ~ ntɕherla 1611 (nqorla-) 「供える」, n ~ n 交替として, na 173 ~ na 99 (ne) 「これ」, -sannii 2227 ~ -sannii 2458 (-sannii) 「(形動詞過去+主観範疇)」, maanii 2473 ~ maanii 2456 (maalii) 「急いで」, nara 1363 ~ nara 2828 (nire) 「名前」, q ~ k 交替として, qa 2267 ~ kə 1215 (gi-) 「する」, qarqa 37 ~ karqa 4010 (ghargha-) 「出す」, qua 2177 ~ kua 3237 (ughu-) 「与える」, səuuka 4112 ~ səuuka 4144 (suuge) 「イヤリング」, şterqa 4145 ~ şterka 4225 (shdirge) 「脱穀場」, thonqu 388 ~ thonku 396 (tungu-) 「拾う」, -xquii 97 ~ -xkuii 2733 (hughui) 「非常に」, v ~ w 交替として, aavə 39 ~ aaw 3246 (awu-) 「取る, 買う」, vara 448 ~ wara 4230 (wari-) 「取る」, vara 816 ~ wəra 323 (uro-) 「入る, 降る」がある。

調音法に違いがあるものには, l ~ n 交替として, xala 840 ~ xana 630 (hana) 「全部」, ɕ ~ tɕ 交替として, phəɕa 2036 ~ phətɕa 892, phutɕa 380 (puxa) 「～ではない」, s ~ ts 交替として, -sa 99 ~ -tsa 4144 (-sa) 「(奪格)」, -sa 110 ~ -tsa 3126 (-sa) 「(仮定副動詞)」, ş ~ ɕ 交替として, şusta 3243 ~ ɕusta 2442 「振る」がある。

無気音/有気音の違いには, p ~ ph 交替として, pəuu 110 ~ phəuu 2782 (bau-) 「降りる」, piilii 3758 ~ phiila 36 (piile-) 「吹く」, t ~ th 交替として, tienkərə 4196 ~ thinkərə 2456 (tingere) 「天」, tɕ ~ tɕh 交替として, tɕhəntɕə 2495 ~ tɕhəntɕə 3526 (qinji) 「恨み」, k ~ kh 交替として, rankak 2827 ~ rankhak 2840 (ranka) 「普通の」, şənkə 4463 ~ şənkə 4418 「敬献」, ts ~ tsh 交替として, tɕhəntsəŋ 4032 ~ tɕhəntshaŋ 4698 (qimsang) 「人家, 家族」がある。

19. 3. 音節末子音交替

m ~ n 交替として, rtienpəm 155 ~ rtienpən 4603 (rdombun) 「石頭塊」, tɕhəmtshaŋ 4698 ~ tɕhəntshaŋ 4032 (qimsang) 「人家, 家族」, thamtɕhat 1671, 2829 ~ thantɕhat 2299 「全体」, xampəraa 2012 ~ xanpəraa 3078 (hamburaa- 「休息する」, var rəmtɕhan saŋ 2042 ~ vat rəntɕhan saŋ 1246 「中部財宝神」, xamtɕii 4191 ~ xaantɕii 4293 「国王」, r ~ ɕ 交替の例として, ntɕharla 1611 ~ ntɕhotl-aanə 2011 (nqorla-) 「供える」, khənkarşkar 35 ~ khənkərška 1554 (kingerge) 「太鼓」, ştar 2595 ~ ştaa 39 「そのような」, r ~ t ~ ɕ 交替として, ɕtɕərpəuu 3104 ɕtɕətpəuu 1959 ~ ɕtɕəpəuu 4526 (xjirbuu) 「幸福な」, r ~ t 交替とし

て, var 920, 1276 ~ vat 1446 「中部」, t ~ \emptyset 交替として, rkot 1749 ~ rko 805 (rgod) 「鷹」, r ~ s \emptyset 交替として, nthar 159 ~ tha \emptyset 231 (tash, tar, dash) 「石」, k ~ \emptyset 交替として, tch \emptyset rok 171 ~ tch \emptyset ro 988 (qirig) 「兵士」, rok 173 ~ ro 2062 (rog) 「方面」, nak \emptyset 633 ~ na \emptyset 2540 (nagxi) 「こっち」, thak \emptyset 4487 ~ tha \emptyset 633 (tagxi) 「あっち」, nkhuuijii \emptyset nokmo 1955 ~ nkhuuijii \emptyset nomo 2309 「布谷姑娘」, mok \emptyset t \emptyset 1744 ~ mo \emptyset t \emptyset 4580 「朝早く」, k ~ x 交替として, aalok 411 ~ aalox 2907 (alag) 「斑」, moklok 605 ~ moxlox 4155 (moglog) 「丸い」, taklaaqw 2961 ~ toxlaaqw 2967 (dagla-) 「掉進」, l ~ \emptyset 交替として, namt \emptyset 164 ~ namt \emptyset 2194 (namxi) 「化身, 魂」がある。

19. 4. 音節初頭にも音節末にも起こりうる交替

調音点の違いしかないが, m ~ n 交替として, 音節初頭には, mtch \emptyset erla 4003 ~ ntch \emptyset erla 1611 (nqorla-) 「供える」, rtienp \emptyset m 155 ~ rtienp \emptyset n 4603 (rdombun) 「石頭塊」, 音節末には, tch \emptyset emtsha \emptyset 4698 ~ tch \emptyset emtsha \emptyset 4032 (qimqang) 「人家, 家族」, xamp \emptyset raa 2012 ~ xanp \emptyset raa 3708 (hamburaa-) 「休息する」, n ~ ŋ 交替として, 音節初頭には, nkhuuijii \emptyset nokmo 1955 ~ nkhuuijii \emptyset nomo 2309 「布谷姑娘」, 音節末には, lurt \emptyset an sa \emptyset 3467 ~ lw \emptyset rt \emptyset an sa \emptyset 2475 「龍王神」がある。

なお, p ~ v ~ j, t \emptyset ~ t \emptyset s, tch ~ t \emptyset sh の交替はない。

20. チベット語からの借用語における音韻変化

チベット語からの借用語は非常に多いが, その中で他の方言とは異なった形式を持っている語がある。チベット文語 gser 「金」は xser 784 ~ ser 4299 (seer) 「銭」という形式で現れる。他の方言では s の前の子音は保存されていない⁽⁷⁾。瞿霭堂 (1982) のチベット語アムド方言の記述には gser 「金」の例は記載されていないが, gseb 「種馬」, gsun 「三」の例で見ると, 「種馬」については夏河と炉霍で語頭の g を脱落させ, 「三」については夏河でのみ語頭の g を脱落させているが, 阿力克, 循化, 楽都, 化隆, 道孚では保存している。

チベット文語 rnam phul 「魂」は namt \emptyset sh \emptyset 164 ~ namt \emptyset ch \emptyset 2194 (namxi) という形式で現れる。『土漢詞典』では namxi, Schröder では namsü B 97, namsí GR 3072 となっていて語末の l は保存されていない。同様にチベット文語 rgyal po 「王, 皇帝」は rt \emptyset calwo 177 (rjawu) という l を持った形で現れるが, 他の方言では l は保存されていない。語末の l の有無に関する語彙で g \emptyset ril GR 158 ~ g \emptyset ri GR 1118 「山影」, 『土族語詞彙』ger \emptyset l ~ gere というのがあるが, 天祝方言には見あたらない。瞿霭堂 (1982:101) にはチベット語アムド方言の下位方言の形式が記載されているが, 語末の l を保存している方言はない。Schröder の資料にはチベット文語の yul 「地方, 国」が yür VM II 39 という形式で現れ語末の l が r になっている。これについては Róna-Tas (1962: 105) が Schröder に誤植ではないことを確認している。天祝方言

でも *jər* 263, 4435 という語末が *r* の形式で現れる。他の方言ではこの語彙は確認できない。『土族語話語材料』には *maxda* 106, 353 (*magdaal*) 「賞賛」という *l* が脱落した例がある。

チベット文語 *dkyil* 「中部」はチベット語アムド方言は *ɕtɕəl* 311 のように *l* を伴った形で現れるが、土族語形は *ɕtɕii* 605 (*xjii*) 「中部」という *l* のない形で現れる。この語は他の方言でも *l* を保存していない。

21. 与位格

他の方言に見られない天祝方言の特徴の一つに与位格の *-stə* がある。この異形態は *k*, *r*, *n*, 母音で終わった語の一部に付く。以下例を記す。*tɕok-stə-nə* 34 (*qagdu ni*) 「時に」, *rok-stə* 173 (*rogdu*) 「方に」, *solquii rok-stə-tɕə* 837 (*solghui rogduji*) 「左側に」, *vəraŋ rok-stə-tɕə* 838 (*warong rogduji*) 「右側に」, *thienkar-stə* 322 (*tingerdu*) 「天に」, *ntur-stə* 532, 1116 (*undurdu*) 「高いところに」, *jar-stə* 587, 740 (*yardu*) 「夏に」, *tur-stə* 1121 (*durdu*) 「毎日」, *qar-stə-nə* 1391, 2404 (*ghardu*) 「手に」, *mor-stə* 2832 (*moordu*) 「道に」, *nəuur-stə-tɕə* 1833 (*niurdu*) 「顔に」, *qər-stə* 3455 (*ghoordu*) 「二人に」, *fan-stə* 2194 (*fondu*) 「年に」, *ro-stə* 2062 (< *rok-stə*) (*rogdu*) 「方に」, *ntaa-stə* 2195 (*ndaadu*) 「我々に」。

与位格の形態としては他の方言にも見られる *-tə* もある。この異形態は上述の *k*, *r*, *n*, 母音以外にあらゆる子音及び母音で終わった形に付く。したがって語によっては上述の異形態のどちらも取りうるものがある。*aaku ɕtɕataŋ-tə* 542, 658, 835 「阿部加党 (人名) に」, *ɕtɕuan-tə* 584 (*xjondu*) 「原因に」, *ʁoʁɕuok-tə-nə* 230 「南面に」, *juantɕhuan-tə* 1366, 1486 「周囲に」, *lurtɕaʃ anpo-tə* 582 「須弥山に」, *nəkhuar-tə* 2760 「下に」, *nəta xuii-tə* 112 (*nige huidu*) 「一度」, *qar-tə* 4128 (*ghardu*) 「手に」, *quesaŋ-tə* 521 (*ghuisangdu*) 「チベットに」, *rəm̥pa-tə-nə* 521 (*rimbadu ni*) 「ときに」, *skəl-tə* 808 (*sgildu*) 「心に」, *skarmaa tontɕəp-tə* 2759 「スガールマ・ドンジブ (人名) に」, *stok-tə* 2299 (*shdagdu*) 「印に」, *tɕəqa-tə* 541 (*jighadu*) 「上に」, *thamt ɕet-tə* 2829 「全体に」, *thienkar-tə* 2750, 2842 (*tingerdu*) 「天に」, *tontak-tə* 380, 583 (*dundogdu*) 「ことに」, *var-tə-nə* 920 「中部に」。

与位格が付くとき語幹末に *n* が付くことがある。東溝方言を記した照那斯圖 (1981: 20) には *ʃdaacun-də* (*shdaaghudu*) 「柴のところに」という例が挙げられているし、那龍溝方言を記した de Smedt et Mostaert (1964: 19) にも *sdāgundu* (*shdaaghudu*) 「柴のところに」という同じ例が載っている。『土族語話語材料』にも, *durdu* 26 「毎日」, *shdoogusgendunaa* 54 「先祖たちに」, *udendu* 25 「門のところに」という例がある。Schröder の資料にも *tolghuen-də* (V M II 437) (*tolghuidu*) 「頭に」という例がある。哈拉直溝方言にも Тодаева (1973) に *dünde p.* 118 1.14 (*daudu*) 「歌で」, *amandeni p.* 210 1.6 (*amadu ni*) 「その口に」, *udiendeni p.* 216 1.31 (*udedu ni*) 「その門のところに」という例がある。天祝方言にも *aamantə* 3755 (*amadu*) 「口に」, *ʃtsuentə* 2944 (*szudu*) 「水のところに」という例がある⁽⁸⁾。しかしどの語にも *n* が現れる

かははっきりしない。方言差、個人差もあるようである。

与位格の異形態に現れる *-stə* の *s* と同じ音が結合副動詞、仮定副動詞、譲歩副動詞にも現れることがある。結合副動詞は *-təə* ～ *-stəə* という異形態を持っているが、後者の異形態が、*qar-stəə* 1444 (ghariji) 「出て」という例に見られる。仮定副動詞は *-sa* ～ *-sə* ～ *-tsa* ～ *-stsa* という異形態を持っているが、この最後の異形態が、*qw-stsa* 2177, 2210 (ughusa) 「与え」と、*səuu-stsa* 3032 (sausa) 「座ると」という例に現れる。また譲歩副動詞の形式として *-stsa-ta* が *var-stsa-ta* 3701 (warisa da) 「取っても」という例に現れる。与位格の場合と違って例があまりにも少ないので一般化はできないが、他の方言には見られない天祝方言の特徴として注目に値する。⁽⁹⁾

22. 使役⁽¹⁰⁾

天祝方言の使役形は *-qa* (あるいは *-ke*) と *-lqa* (あるいは *-lkua*, *-lqw*) とがある。一部の動詞には *-qa* しか付かないが、多くの動詞にはどちらも付く。*-qa* しか付かないのは、*qar-qa* 37 (ghargha-) 「出す」、*khur-qa* 4514 (kurgee-) 「届ける」、*aarəl-qa* 3105 (arililgha-) 「きれいにする」のような動詞である。一方でどちらが付いてもよい動詞がある。*əə-qa* 2760, *ə-qa* 2338 ～ *əə-lqa* 196, 2766 (xjilgha-) 「行かせる」、*rə-qa* 2651 ～ *rə-lqa* 2651 (irelgha-) 「来させる」、*tis-qa* 2763 ～ *tis-lqa* 3240 (idelgha-) 「食べさせる」、*pəuu-qa* 2964 ～ *pəuu-lqa* 377 (baulgha-) 「降ろす、落とす」。長母音・二重母音語幹動詞はどちらが付いてもよさそうである。自由交替の例は見あたらないが、長母音語幹動詞の例を挙げると、*tuva-a-qa* 1899 (dawaalgha-) 「通過させる」、*pəraa-lqa* 3754 (buraalgha-) 「終わらせる」のようなものがある。

東溝方言では一部の動詞に *-gha* が付き、その他の大部分の動詞には *-lgha* が付くが、長母音・二重母音語幹には必ず *-lgha* が付く。那龍溝方言では長母音語幹に *rġa* でなく *ġa* が付くことがあるという点で天祝方言に似ている。

『土族語話語材料』で *-gha* が付いているのは、*poscu-* 344 (bosilgha-) 「建てる」、*garca-* 421 (ghargha-) 「出す」と共に、*torloga-* 155 (torlalgha-) 「救う」、*xauləga-* 271 (haulilgha-) 「走らせる」、*bolga-* 270 (bolilgha-) 「煮る」、*ədzolga-* 418 (xjolilgha-) 「沸かす」である。また、Heissig (1980) には *dōlaḡaḡua* 6410 (dulaalghan gua) 「放牧させない」という例がある。いずれも語幹末に近い位置に *l* を持っている語である。

23. 分離副動詞

天祝方言の分離副動詞は *-a*, *-aa*, *-aanə*, *-vaa*, *-vaanə* の6つの異形態があり、前者3つは短母音語幹にのみ付くのに対し、次の2つは長母音語幹、二重母音語幹のみならず短母音語幹にも付く。*nə* の有無は自由である。東溝方言と違って母音調和による交替形がない。短母音語幹末の *u* は分離副動詞語尾の前で脱落しないが、それ以外の母音は脱落する場合としない場合があ

る。いくつか例を記す。çəraa-vaanə 3737 (xiraawaanu) 「焼いて」, fun-aa 3196 (funaa) ~ fun-aanə 1224 (funaanu) 「乗って」, jəuu-vaa 3197 (yauwaa) ~ jəuu-vaanə 152 (yauwaanu) 「行って」, rəku-aa 4025 (rgua) ~ rəku-aanə 1323 (rguanu) ~ rəku-vaa 3708 (rguaa) 「背負って」, sk-aanə 153 ~ səka-vaanə 351 (sgeenu) 「見て」, ştaa-vaa 1916 (shdaawaa) 「焼いて」, thonqu-aanə 388 (tonguanu) 「拾って」, wətçu-a 4022 (uqaa) 「飲んで」, xar-aa 2479 (haraa) 「帰って」, xku-vaanə 3159 (fuguanu) 「死んで」。

Schröder の資料は母音の長短がきわめて曖昧であるが, sira-wāno (XM 50) (xiraawaanu) 「焼いて」, tuda-wāno (MIV 39) (tudaawaanu) 「逃げて」のように -wāno は本来の長母音語幹にしか付かない。

24. 接続詞 *te* 及び助詞 *ta*

天祝方言では接続詞 *te* と助詞 *ta* が母音の違いによって区別されている。接続詞 *te* の例としては、次のようなものがある。ška najonskə *te* khuənskə 38 (shge nuyoonsge da kunsge) 「大將軍たちならびに人民たち」, rko *te* pasə 805 (rgod da bas) 「鷹と虎」, lama *te* na ətçuəu qola 1134 (lama da ne xjun ghuilo) 「ラマとこの娘」。

助詞 *-ta* の例としては次のようなものがある。aaku ətcatar-*ta* 631 「阿部加党（人名）も」, khə taknkə-*ta* 1371 (kadagda) 「ハダクも」, khənskənə-*ta* 821 (kunsgenuda) 「人々も」, morə-*ta* 702 (morida) 「馬も」, naska-*ta* 540 (nesgeda) 「これらも」, rənpa-*ta* 1511 (rimbada) 「時も」, səmə-*ta* 703 (sumuda) 「矢も」, ška məlaa khuənskənə-*ta* 280 (shge mulaa kunsgenuda) 「大小の人も」, tərāsənə-*ta* 1601 (duraasinuda) 「酒も」。

東溝方言では接続詞と助詞とは音声的に区別がない。接続詞の例を『土族語話語材料』から引くと, suu da qiginaa 117 「尻尾と耳を」, lama da moqi 131 「ラマと大工」, aaba da aama ghuilo 262 「父と母」, 助詞の例をやはり『土族語話語材料』から引くと, hainagda posigu 116 「ハイナクも起きると」, kenmada ndaasgenu baghaji adaguna 117-118 「誰も我々を殴れない」, bu ujeu duraanda gua 123 「私は見たくもない」のようなものがある。(以上表記は正書法に改めた。接続詞は話して書き, 助詞はくっつけて書く。)

なお, 民和方言では接続詞は *ma* で表される。Тодаева (1973:296) に *diese ma soguo* 「縄と斧」という例がある。

25. *-nkə*

土族語の互助方言では普通 *-nge* は母音語幹に付き, *-ge* は子音語幹に付くが, 天祝方言では母音語幹, 子音語幹を問わず *-nkə* が付く。母音語幹に付く例には, lapstə-nkə 153 (labsinge) 「山神, オボ」, qataa-nkə 98 (ghadaange) 「岩石」, wlua-nkə 160 (ulange) 「山」, wlua-nkə-ra 1071 (ulangere) 「山の上に」, 子音語幹に付く例には, nthar-nkə 1121 (targe) 「石」, ştienntşue

l-nkə 34, 521 (shdemzhulge)「兆候」, ştsaŋ-nkə 37「柏桑」, tşwak-nkə 868「岩石」, tɔxlaŋ-nkə 113 (doghulongge)「びっこ」, watsar-nkə 604 (wazarge)「城」, wlan-nkə 171 (ulonge)「多い」, xaan-nkə 47 (haange)「首領」等がある。

Schröderの資料には sgil-gë XM 323 ~ sgila-ŋgë B 99 (sgil)「心」のように本来は子音語幹の語に母音を介して-ŋgë が付いた例があるが、基本的には母音語幹と子音語幹で違った形態が付く。

那龍溝方言の資料ではなぜかほとんどが -geである。保安語にも類似した形態があるが、資料によって付き方が異なっている。Тодаева (1964)では母音, r, ɲ 語幹に -geが付いた例しか見あたらないが、『保安語話語材料』では母音, r, ɔ 語幹に -ngə が付いた例があり, r, ɔ, b, n, ɲ 語幹に -gə が付いた例がある。⁽¹¹⁾

26. 動詞語幹 (あるいはゼロ副動詞)

土族語ではada-「できる」, yada-「できない」の前には動詞の語幹のままの形があらわれ、副動詞にはならない。この点は天祝方言でも同じであるが、天祝方言ではさらに, səuu (sau-), qw (ughu-), ra (re-) などの前にも動詞語幹の形式が現れる。no səuu 1123 (nauji sau-)「見る」, furaa səuu 715 (furaaji sau-)「倒れる」, ɔwsə səuu 229 (oosiji sau-)「生長する」, xaa səuu 906 (haaji sau-)「閉める」; satɕa qw 379, 632 (sajiji ughu-)「撒く」; təuɔwta ra 386 (daudaji re-)「呼んでくる」, vara ra 448 (wariji re-)「捕まえてくる」。

27. lii ~-va

否定辞lii は-n (非分離副動詞), -tɕən (形動詞現在), -na (終止形現在), -kuəu (形動詞未来), -kuna (終止形未来) などいわゆる非過去形と共に用いられ、否定辞sii は -san (形動詞過去), -va (終止形過去) などいわゆる過去形と共に用いられるのが普通であるが、天祝方言には次のように lii が -san (形動詞過去)や -va (終止形過去)と共に用いられた例が1例ずつある。⁽¹²⁾

| | | | | | | |
|---------|------------|-------------|--------------|------|----------|------|
| tsaŋta | <u>lii</u> | tɕantɕhasan | khənkarşkanə | nəka | tɕantɕhə | 1554 |
| (Zongda | lii | janqisan | kingergenu | nige | janqi.) | |
| 今まで | | 打ったことのない | 太鼓を | ちょっと | 打て。 | |

| | | | | | | | | | | | |
|--------|-------|----------|------------|---------|-----|-----|----------|-----|-----|------------|------|
| ntɕə | tɕəmu | qɔkuəu | <u>lii</u> | tərlava | tɕə | tii | xanala | ɕə | kaa | khəlieɕtɕa | 2765 |
| (Njeen | qimu | ughugu | lii | durlawa | ji | dii | hanala | xji | ha | kilexja.) | |
| 私は | おまえを | やりたくなかった | が | 皆 | 行け | と | 言ってしまった。 | | | | |

28. 天祝方言に見あたらない形式

コピュラ（あるいは存在を表す）は東溝方言にはiiとwaiとあり、那龍溝方言にも*i*と*wē*があることが記述されている。Schröderの資料及びТодаеваの資料にはiiしか現れない。天祝方言でもiiしか現れない。

副動詞 -san gulo は東溝方言，哈拉直溝方言には認められるが，天祝方言には見あたらない。
-san ba（形動詞過去＋助詞）という形式は，東溝方言，哈拉直溝方言，那龍溝方言には存在するが，天祝方言には見あたらない。

29. 土族語互助方言の下位方言間の違い

土族語互助方言の下位方言の形式をまとめると次のようになる。

| | | 東溝方言 | 哈拉直溝方言 | 那龍溝方言 | 天祝方言 | |
|--------|----|------------------------|----------------------|----------|-----------|-------------------|
| 与位格 | 1 | -du | -de | -du | -ʂtə | |
| | 2 | -du | -de | -du | -tə | |
| -nge | C | -ge | -ge | -ge | -nkə | |
| | V | -nge | -nge | -ge | -nkə | |
| -lage | | -la (h)gi | -laxge | -ragi | -laxkə, | -laʂkə |
| 結合副動詞 | | -ji | -dʒi | -dʒi | -tɕə, | -ʂtɕə |
| 仮定副動詞 | | -sa | -sa | -dza | -sa, -sə, | -tsa, -ʂtsa |
| 形動詞過去 | | -san | -san | -dzan | -san | |
| 奪格 | | -sa | -sa | -dza | -sa, | -tsa |
| 位格 | | -re | -ra | -re | -ra | |
| 分離副動詞V | | -aa (nu) ³ | -ā (nu) ² | -ā (nu) | -aa (nə) | waa (nə) |
| | VV | -waa (nu) ³ | -wā (nu) | -ā (nu) | -waa (nə) | |
| 使役 | 1 | -gha, -lgha | -ḡa | -ḡa, -ḡo | -qa | |
| | | -gee | -ge | -gē | -kɛ | |
| | 2 | -gha, -lgha | -lḡa | -ḡa -rḡa | -qa | -lqa, -lkua, -lqw |
| | | | | | | |
| 接続詞 | | da | da | da | tɛ | |
| 助詞 | | -da | | da | ta | |
| コピュラ | | wai | ī | wē | ii | |
| | | ii | ī | ī | ii | |

分離副動詞の添え字は母音交替形を示す。点線の部分は同じ異形態であることを示す。

30. 同音意義語

『土漢詞典』では区別されているのに、天祝方言では同音意義語になっている語がある。まず ai/eeが中和しているために起こる同音意義語には, ɕɛ 3202 (hai-)「日向ぼっこする」, ɕɛ 1121 (xee-)「小便する」; tsɛla 2441 (zaila-)「刺さる」, tsɛla 2735 (zeele-)「迎える」がある。また au/uu (iu)が中和しているために起こる同音意義語には, məuu 582 (mau)「悪い」, məuu 2178 (muu)「あるいは」; jəuu 73 (yau-)「行く」, jəuu 1277 (yuu)「あるいは」; təuu 3429 (dau)「声」, təuu 1375 (diu)「弟」がある。さらに以下のような同音意義語がある。pasə 805 (bas)「虎」, pasə 1609 (bos)「布」; phətɕak 4083 (pujag)「豆」, phətɕak 2677 (pujig)「字」; theqɥ 1709 (tughoo)「鍋」, theqɥ 320 (tughu-)「鞍をつける」; tɕhətɕok 3843 (qojog)「酒杯」, tɕhətɕok 1185 (qijig)「花」; vərə 2194 ~ vara 448 ~ wara 4230 (wari-)「取る」, vərə 816 ~ vara 2133 ~ wərə 323 (uro-)「入る」。また次のように『土漢詞典』でも場合によっては区別されない、よく似た言葉の対がある。ɕərə 680 (xiree-)「信じる」, ɕərə 3842 ~ ɕərei 1427 (xiree)「机」; ntur 532 (undur)「高い」, ntur 1587 ~ tur 224 (dur)「日」; stsu 1149 ~ ʂtsu 106 (szu)「水」, stsu 4106 (szu)「髪」; tɕərə 2223 (qiree)「岸」, tɕərə 2817 (qiree)「顔」, tɕəuura 659 ~ tɕəura 4723 (juure, jooroo)「間」, tɕəuura 4848 ~ tɕəuurə 4849 (juuri-)「書く」。

31. 類義語

天祝方言で確認できた類義語には次のようなものがある。ɕəraa 4417 (xiraa-), tɕaala 1557「焼く」; ɕərə 3842 ~ ɕərei 1427 (xiree), tɕoktɕɛ 4471 < Tib. lcog rtse「机」; ɕəuu 230 (xau), ɕua 2285 < Tib. bya「鳥」; ɕtɕotsə 229 (xjoosi)「樹木」, ɕən 4450 < Tib. shing,...mu 4208 < Ch. 木 (mu⁴), suənmu 4120 < Ch. 松木 (song¹mu⁴), piimu 4119 < Ch. 柏木 (bai³mu⁴), motə 2730 (moodu)「木材」; ɕuaaskar 4192, jaŋmu 4192「吉日」; fulan 1274 (fulaan), maarəu 4391 < Tib. dmar po「赤い」; məxa 31 (maha), xaa 4391 < Tib. sha「肉」; nəmə 3602 (numu), ntaa 2441「弓」; phəqa 3145 (phagha-), thekələ 3942「放開」; phətəntɕə 820 (pudangzi), thaɕtɕa 103 (taaxja)「灰」; phii 3105 (pai), nasaa 3310「炕」; rəmpa 520 (rimba), sakə 2907 (sagu), sar 1286 (sar), sɕəuu 4106 (sg hau), tɕhok 34 (qag)「時」; sawtak 4200, thutɕu 4200 < Ch. 土主 (tu³zhu³)「土主」; səkaa 4389 (sgaa), saɕɕok 4283「分け前」; ɕaŋlian 2337 < Ch. 商量 (shang¹liang), tɕii 1558 < Tib. gros「相談」; ɕka 34 (shge), tɕhanpo 1164 < Tib. chen po「大きい」; tholquei 162 (tolghui), ʂtsii 37 < Tib. rtse「頂上」; tontak 380 (dundog) < Tib. rdon dag, jənkan 1426「事情」; tsoxua 1557 (zoohu) < Ch. 竈火 (zao⁴huo), thap 30 < Tib. thab「竈」; vatsar 604 (bazar), nkhuar 9535 < Tib. mkhar「城」; xaan 29 (haan), rtɕalwo 177 (rjawu) < Tib. rgyal po, 「王, 皇上, 首領」; xol ə 817 (hau li-), ʂtsar 3610「走る」。

32. 漢語借用語

チベット語に継いで多い借用語は漢語からのものである。以下に確認できたものをすべて記す。

| 天祝方言 | 漢語 (拼音) | 『土漢詞典』 |
|-----------------------|---|-----------------------------|
| aama 2787 | 阿媽 (a ¹ ma ¹) | aama お母さん |
| aapa 1133 | 阿爸 (a ¹ ba ⁴) | aaba お父さん |
| aatçəuu 4180 | 阿舅 (a ¹ jiu ⁴) | |
| çan 612 | 先 (xian ¹) | |
| çanla 3456 | 想 (xiang ³) | 思う |
| fula 4140 | 扶 (fu ²) | fuula- 支える |
| fulu 4200 | 富祿 (fu ⁴ lu ⁴) | |
| jaaxo 152 | 垭豁 (ya ⁴ huo ⁴) | 二つの山の挟まれた狭い所 |
| juantçhuan 1366, 1486 | 圓圈 (yuan ³ quan ¹) | [juantçyan] 周圍 |
| kankantsə 3277 | 杆杆子 (gan ³ ganzi) | ([ganɖzə] 棒 |
| kuaa 2458, 3264 | 卦 (gua ⁴) | 卦 (ケ), 占いの符号 |
| kuaala 2442 | 掛 (gua ⁴) | guala- 掛ける |
| kuantela 4297 | 冠載 (guan ⁴ dai ⁴) | 身につける |
| kue 2974 | 奇 (guai ⁴) | guai 奇怪 |
| kuiije 4059 | 姑爺 (gu ¹ ye) | guuye 婿殿 |
| lanthəuuta 3415 | 榔頭 (lang ² tou) | lantida- ハンマーで打つ |
| liantse 2131 | 粮子 (liang ² zi) | ([lian]) 穀類 |
| liauliivaa 4210 | 琉璃 (liu ² li) | るり |
| liəuu 1795, 2786 | 龍 (long ²) | liu 龍 |
| maal-aanə 4091 | 抹 (ma ¹) | (maaki-) 擦る |
| məsənɛ 4214 | 牛 (niu ²) | musi+牛 犏牛 |
| mɛmɛtçhə 3460 | 買壳 (mai ³ mai ⁴) | maimaiqi 商売人 |
| nən 656, 2490 | 寧 (ning ²) | いっそう, むしろ |
| paatse 3950 | 靶子 (ba ³ zi) | baazi 的 |
| paatse 4137 | 把子 (ba ³ zi) | (箸の助数詞) |
| panfaa 2432 | 办法 (ban ⁴ fa ³) | [banfa:] 方法 |
| pankhə 1570 | 办 (ban ⁴) | bangi- 方法をこうじる |
| piimu 4119 | 柏木 (bai ³ mu ⁴) | 柏の木 |
| pooçtçhə 4081 | 簸箕 (bo ⁴ ji) | boqi 箕で穀物をふるう もまれて激しくゆれる |
| potçən 4144 | 包巾 (bao ¹ jin ¹) | |

| | | | |
|------------------------|--|---------------|---------------------------|
| pothəuu 4109 | 包頭 (bao ¹ tou) | | スカーフ |
| puula 4453, 4457, 4462 | 補 (pu ³) | buula- | 補充する |
| sqəuu 4106 | 時候 (shi ² hou) | sghau | 時 |
| suana 1838 | 算 (suan ⁴) | | |
| suanmu 4120 | 松木 (song ¹ mu ⁴) | | 松の木 |
| ʂantse 4070 | 扇子 (shan ⁴ zi) | shanzi | 門扇 |
| ʂaŋce 4223 | 上席 (shang ⁴ xi ²) | | |
| ʂaŋliɑŋla 2337, 2521 | 商量 (shang ¹ liang) | shangliangla- | 相談する |
| ʂaŋʂən 4200 | 山神 (shan ¹ shen ²) | | |
| ʂaŋtse 1172 | 升子 (shang ¹ zi) | shangzi | 升 |
| ʂusta 3243 | 甩 (shuai ¹) | | 振る |
| taala 4232 | 塔 (da ¹) | daala- | 組んで作る |
| taalian 4516 | 搭連 (da ¹ lian) | [da: len] | 肩に掛ける厚い布地製の袋 帯にはさむ小型の袋 |
| tantɕputɕə 4485 | 担当不起 (dan ¹ dang ¹ buqi ³) | | 引き受けない |
| təuu 3412 | 就 (jiu ⁴) | [dziu] | |
| təuujiila 2688 | 就 (jiu ⁴) | | 緒につく |
| təhaa 32 | 茶 (cha ²) | qaa | お茶 |
| təhankaŋ 3430 | 窓框 (chuang ¹ kang ⁴) ⁽¹³⁾ | qonggong | 窓 |
| təhaŋpan 4090 | 墙板 (qiang ² ban) | | 壁, 塀 |
| təhii 377 | 旗 (qi ²) | | 旗 |
| təhuən 4461 | 群 (qun ²) | | 群 |
| təotce 3957 | 轎子 (jiao ⁴ zi) | | 籠 |
| tən 840 | 鐙 (deng ⁴) | [dən] | 鐙 (アフミ) |
| thantse 2786 | 趟子 (tang ⁴ zi) | | 回数 |
| thəumaa 1727 | 頭馬 (tou ² ma ³) | | 先導馬 |
| thəuucaŋ 4113 | 頭繩 (tou ² sheng ²) | tuux/shang | 元結い |
| thutʂu 4200 | 土主 (tu ³ zhu ³) | | |
| ton 3334 | 頓 (dun ⁴) | | (回数) |
| tsantan mu 4208 | 木 (mu ⁴) | zandan 木 | 檀香木 |
| tsəuure 2009 | 棗兒 (zaor ³) | zauri | ナツメ |
| tshəcən 4200 | 財神 (cai ² shen ²) | | 福の神 |
| tshotchuan 4103 | 草圈 (cao ³ quan ¹) | | |
| tsoliəuu 2907 | 棗騮 (zao ³ liu ²) | | 赤毛の馬 |

| | | | |
|--------------------------|--|-------------|----------|
| tsoxua 1557 | 竈火 (zao ⁴ huo) | zooHu | 竈 (カマド) |
| tʂaŋfaŋ 3937 | 帳房 (zhang ⁴ fang ²) | [dzaŋ faŋ] | 帳房 |
| tʂhənla 3805, 4021, 4271 | 成 (cheng ²) | [tʂəŋla-] | なる, する |
| tʂhəntaŋla 1585, 3804 | 承当 (cheng ² dang ¹) | chindangla- | 承諾する |
| tʂuan 2491, 2921 | 転 (zhuan ³) | | 回る |
| tʂuanpiila 2762 | 準備 (zhun ³ bei ⁴) | | 準備する |
| tʂhuantse 4088, 4137 | 椽子 (chuan ² zi) | [tʂuandzɿ] | 垂木 |
| tʂuaŋla 1333, 4216 | 装 (zhuang ¹) | (zhongki-) | 装 |
| wankuii 3373 | 碗柜 (wan ³ gui ⁴) | | 戸棚 |
| xuaŋla 1302 | 慌 (huang ¹) | hongla- | 慌てる |
| xuii 112 | 回 (hui ²) | hui | 回 |
| xumaa 4155 | 胡麻 (hu ² ma ²) | humaa | アマ, アメゴマ |

(): 『土漢対照詞彙』 []: 『土族語詞彙』 添え字: 声調

33. 誤植

明らかに誤植と思われるものは次のとおりである。

| 誤 | 正 | 『土漢詞典』 | |
|---------------|-------------------|-----------|---------|
| aatce 4703 | aantce 196 | anjii | どこ |
| athə 3810 | naathə 1490 | naadi- | 遊ぶ |
| -ctciin 1921 | -ctciiii 73 | xji- | ～てしまう |
| ɛaŋ 2229 | ɛlaŋ 34 | | リン (地名) |
| jaŋtsəla 3958 | jaŋtceɫa 209 | yangjila- | お願いする |
| kaare 4265 | | | 持って来る |
| -keii 1149 | -ctciii 73 | xji- | ～てしまう |
| -khə 3145 | -nke 30 | -nge | |
| khən 821 | khuən 38 | kun | 人 |
| khuəu 607 | khuən 38 | kun | 人 |
| kii 175 | kui 58 | gui | ない |
| knətci 2861 | khətci 105 | | こんな |
| kohpasəŋ 1377 | konpasəŋ 1389 | | 寺主 |
| -kse 4223 | -ske 1 | -sge | (複数形) |
| maactcən 4075 | naactcən 4033 | naaxjin | ナーシジン |
| matmaa 3712 | vatmaa 3706, 3939 | warma | 蓮 |
| pəaa 2620 | pəsaa | beesaa | 喜んで |

| | | | |
|----------------------|----------------|----------|-----------|
| puu 4030 | pəuu 110 | bau- | 降りる |
| rantɕə 2095 | rətɕə | reji | 来て |
| tɕəren 28 | jəren | yerin | 九十 |
| -tɕə 2527 | -tɕə 29 | -ji | (結合副動詞) |
| tɕhkraa 3210 | tɕhokraa 2902 | qagraa- | 叫ぶ |
| -to 1520, 1568, 3337 | -ta | -da | も |
| -tuən 474 | -kuəu 34 | -gu | (現在未来形動詞) |
| wtɕhul 4106 | wtɕulqa 4006 | uqilgha- | 飲ませる |
| xurəutɕhə 4523, 4524 | xurəntɕhə 4161 | hurimqi | 宴客 |

註

- (1) 互助方言の分類として、魯長壽 (1986: 60) は東溝、大通、五十の三方言の名を挙げているが、具体的な例は全く記述していないので、利用できない。席元麟 (1985) が対象としている地域は、東溝公社大庄大隊、洛少大放、白牙合大隊、東山公社寺爾大隊、五十公社寺灘大隊であるが、その内部における差異については全く記述がない。したがって、具体的な資料がある東溝方言、哈拉直溝方言、那龍溝方現との比較しかできない。
- (2) 土族語の長母音については資料による差異が大きい。角道 (1987, 1988a, 1990a, 1994) を参照のこと。
- (3) 『東部裕固語話語材料』のpp. 350-251に紅石窩の高母音化の実態が記されている。一見したところ類似しているが、語彙的には土族語とは一致しない。
- (4) 席元麟 (1985) の資料には「分家」という語は記載されていないが、ŋ の直前にのみに現れる二重母音 ia が記載されている。
- (5) この語は nkhuar 935 ~ nkhuar 935 「城」というように wa ~ ua 交替をする。他にも lwərt ɕan 2475 ~ lurtɕan 2447 「龍王神」のように wə ~ u 交替する例がある。
- (6) 「百」は本来語頭に n を持っていないが、照那斯圖 (1981: 106) にも ndzoŋ という形式が記載されている。
- (7) Róna-Tas (1960) にチベット文語の接頭辞を失った方言の例として Dpari 方言の名前が挙がっている。
- (8) aamansa 2803 (amasa) 「口から」の語幹が n で終わっていない証拠は aamanəne 1604 (amanu ni) 「その口を」という形式があるからである。
- (9) この現象は19. 1. (2) で述べた s ~ ø 交替と考えられるかもしれない。天祝方言には東溝方言では現れない s を持った次のような語がある。tapstak 3758 (dabsag) 「膀胱」、dapstsa 2009 (dabsi) 「塩」。これらの s が r に近い性質を持っていることは pəuustsak 4092 (boorzog) 「ボールツォク」のような例を見れば一目瞭然である。東溝方言にも mashdaa- < marta- 「忘れる」のような例がある。したがって保安語の年都乎方言に現れる終止形の -rtɕ の r との関係を検討してみる必要がある。この形式は su:-rtɕ 75 「暮らした」、la:-rtɕ 64 「泣いた」、wara-rtɕ 123 「終わった」のように母音語幹にのみ付くが、詳しい条件はよくわからない。『保安語話語材料』にはさらに、su:-rsa 61 「暮らすと」、sda-rsaŋ 127 「できた」のように仮定副動詞、形動詞過去の例も見られる。
- (10) 土族語には、東郷語、保安語と共に、モンゴル文語の -rul ~ -gül に対応する使役の形式がない。なお小沢 (昭54: 208-220) を参照。
- (11) 『保安語話語材料』ではどの地域の話者のものかが個々に明記されていないので、詳細は不明であるが、陳乃雄、等編 (1986a: 81) の鼻音の後で -gə, それ以外で -ngə という説明とは矛盾する。なお (1986a: 386) の一覧表では、-gə, -ngə の両方の形式が記載されているのは、年都乎 (niyandu?) 及び大墩であり、郭麻日 (romar), 尕洒日 (rasar) では -gə のみ、保安下庄、干河灘ではこの形式自体が存在しない。こ

の記述に従うなら、Тодаеваの資料は郭麻日か尕洒日の地方の形式を表している。

- (12) Senghe (1987: 10-11) には li: は終止形現在未来形, 形動詞 (時制の制約なし), 副動詞, 命令希望形に前置し, si: は終止形過去形, 形動詞過去形, 副動詞に前置するという説明がある。副動詞に前置する否定辞の選択は原則として主節の時制に依存している。

この説明によると, 形動詞過去形はどちらの否定辞もとれるが, 終止形過去形が li: をとる例は挙がっていない。天祝方言にはその例が1例見つかった。

- (13) 「窓」は東郷語でも語末に ŋ を持った tʂuɑŋɡuŋ (『東郷語詞彙』162) という形式で現れる。これを「窓戸 (chang¹hu)」に対応させると, なぜ語末に ŋ があるのか説明できない。『土族語詞彙』では「窓框 (chuang¹kang¹)」に対応させているが, これでも第二音節の初頭の有気音がなぜ無気音になるかの説明ができない。

参考文献

- 保朝魯, 賈拉森編 (1988) 『東部裕固語話語材料』(ǰegün yurur kelen ü üge keelge yin materiyal) 蒙古語族語言方言研究叢書 018 内蒙古人民出版社
- 布和等編 (1988) 『東郷語詞彙』(Düngsiyang kelen ü üges) 蒙古語族語言方言研究叢書 008 内蒙古人民出版社
- 陳乃雄, 等編 (1986a) 『保安語与蒙古語』(Bao an ke le ba mongɣol ke le) 蒙古語族語言方言研究叢書 010 内蒙古人民出版社
- 陳乃雄, 等編 (1986b) 『保安語話語材料』(Bao an kelen ü üge keelge yin materiyal) 蒙古語族語言方言研究叢書 012 内蒙古人民出版社
- 甘肅省《格薩爾》工作領導小組辦公室, 西北民族学院《格薩爾》研究所編 (1996) 『格薩爾文庫』第三卷 甘肅民族出版社
- 哈斯巴特爾, 等編 (1985) 『土族語詞彙』(Mongɣor kelen ü üges) 内蒙古人民出版社
- 互助土族自治县民族語文辯 (1982) 『土漢对照詞彙』(Mongghol Qidar Harilqilegu Ugosge) 互助土族自治县民族語文辯公室翻印
- 瞿霽堂 (1982) 「藏語安多方言韻母變情況提要」『民族語文研究文集』90-113 青海民族出版社
- 李克郁編 (1988) 『土漢詞典』(Mongghul Qidar Merlong) 青海人民出版社
- 呂光天 (1981) 「青海土族的語言與來源關係」呂光天著『北方民族原始社会形態的研究』寧夏人民出版社507-522 (初出は1955年第三輯『中国民族問題研究集刊』)
- 清格爾泰等編 (1988) 『土族語話語材料』(Mongɣor kelen ü üge keelge yin materiyal) 蒙古語族語言方言研究叢書 015 内蒙古人民出版社
- 席元麟 (1985) 「土族語音位系統」中国民族語言学会編『中国民族語言論文集』395-405
- 照那斯圖 (1981) 『土族語簡誌』民族出版社
- 照那斯圖, 李克郁 (1982) 「土族語民和方言概説」《民族語文》編輯部編『民族語文研究文集』青海民族出版社 458-487
- 角道正佳 (1987) 「土族語の下位方言」『大阪外國語大學學報』第75-1.2号 49-63
- 角道正佳 (1988a) 「Geser rädzia-wu の言語 - 自由交替 -」『大阪外國語大學學報』第76-1.2号 25-50
- 角道正佳 (1988b) 「Geser rädzia-wu の言語 - 分布 -」『大阪外國語大學學報』第77号 23-44
- 角道正佳 (1990a) 「土族語 (モンゴル語) の一方言の自由交替 - Aus der Volksdichtung der Monguor の言語 -」『大阪外国語大学論集』第3号 65-91
- 角道正佳 (1990b) 「土族語の正書法」『大阪外国語大学論集』第4号 49-76
- 角道正佳 (1990c) 「土族語の一方言 - Aus der Volksdichtung der Monguor の言語 -」『内陸アジア言語の研究』Ⅵ 神戸市外国語大学 外国語研究 X X Ⅲ (神戸市外国語大学外国語研究所) 179-200
- 角道正佳 (1994) 「席元麟「土族語音位系統」における母音の分類について」『日本モンゴル学会紀要』No. 25, 15-28

- 角道正佳 (1996) 「*Geser rëdzia-wu* の語彙」『大阪外国語大学論集』第15号 83-108
- 小沢重男 (昭54) 『中世蒙古語諸形態の研究』開明書院
- 斎藤純男 (1983) 「モンゴル語の音韻体系」『言語・文化研究』創刊号 東京外国語大学大学院外国語研究科
言語・文化研究研究会 9-17
- Heissig, Walther (1980) *Geser rëdzia-wu*, Dominik Schröders nachgelassene Monguor (Tujen)-
Version des Geser Epos aus Amdo, Otto Harrassowitz, Wiesbaden.
- Róna-Tas, A. (1960) 'Remarks on the Phonology of the Monguor Language,' *Acta Orientalia Hungaricae* X/3, 263-267
- Róna-Tas, A. (1966) *Tibet-Mongolica, The Tibetan Loanwords of Monguor and the Development of the Archaic Tibetan Dialects*, Mouton & Co., The Hague.
- Schröder, Dominik (1952) 'Einige Hochzeitslieder der Tujen,' *Folklore Studies*, Supplement 1, 303-354, Peking.
- Schröder, Dominik (1959) *Aus der Volksdichtung der Monguor*, 1. Teil, Otto Harrassowitz, Wiesbaden.
- Schröder, Dominik (1964) 'Der Dialekt der Monguor,' *Handbuch der Orientalistik*, Bd.5, Absch. 2, *Mongolistik*, Leiden/K In, E.J. Brill, 143-158.
- Schröder, Dominik (1970) *Aus der Volksdichtung der Monguor*, 2. Teil, Otto Harrassowitz, Wiesbaden.
- Senghe (1987) 'Mongrol kelen ü üyile üge yin ügeyiskekü, qorirılaqu udqa yi iledkekü arıa ba onçalır,' *Öbür mongrol un yeke surıaruli yin erdem sinjilgen ü sedgül* 1987 on u 2 duıar quıuçaıa 1-17
- (森格 (1987) 「蒙古語族語言動詞の否定, 禁止意義の表示方法と特点」『内蒙古大学学报』節学社会科学蒙古版一九八七年第二期 (総四十二期))
- de Smedt, A. et A. Mostaert (1933) *Le dialecte Monguor parlé par les mongoles du Kansou occidental*, III^e partie, *Dictionnaire Monguor-Français*, Imprimerie de l'université Catholique, Pei-p'ing.
- de Smedt, A. et A. Mostaert (1964) *Le dialecte Monguor parlé par les mongoles du Kansou occidental*, II^e partie, Grammaire, Mouton & Co., The Hague.
- Тодаева Б. Х. (1964) Баоанский язык, издательство «наука» главная редакция восточной литературы, Москва.
- Тодаева Б. Х. (1973) Монгорский язык, издательство «наука» главная редакция восточной литературы, Москва.

(1997. 5. 12 受理)